

繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山 1748

天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

布教はイヤだ

セールス、勧誘、布教…。

これらの言葉は、利己的というか、扇動的せんどうてき「※1」な雰囲気を感じても感じてしまいがちだ。する方も、される方も何だか嫌なイメージを持ってしまおうという人も少なくないだろう。

他方で、先日の神殿講話において、これから繁藤大教会は「ひろめ一条」を胸に歩んでいきたいと話をした。

こんな時代に…。
何を今さら…。

そう思うのが普通の感覚かもしれない。しかし、その意識が薄れつつある今だからこそ、布教、にをいがけに真正面から向き合う必要があると、私は強く思う。

今回の巻頭言では、ひろめ一条の意味と、その神意について思索を深めたい。今までと少し趣きが変わり、教理解説のようになるがお付き合いいただきたい。

「※1」扇動的・・・気持ちをおおき、ある行動を起こすようにしむけること。

◇ ひろめ一条

このたび、私は布教という言葉ではなく、「ひろめ（弘め）」という言葉をあえて用いた。このキーワードにまつわる神言や逸話をいくつか紹介していきたい。

まず、「ひろめ一条」という神言は、おさしづの中に、一度だけ出てくる。

「何か万事の処、ひろめ一条、たすけ一条、後々仕切りて、又こうという。」

(おさしづ 明治24年11月30日)

このおさしづの解釈は、万事ばんじ、つまりすべての事柄・場所に通ずる精神が「ひろめ一条」、「たすけ一条」である、と考えられる。



教祖自ら機織りをされた、
こかん様の振袖
(天理時報より)

◇初めて
の布教

次に、本教における初めての布教に触れておきたい。

嘉永6年(1823)、教祖は夫・善兵衛様のお出直し後、末娘のこかん様を大阪へ神名を流しに行かされた。これは、お道における初めて布教活動ともいえる。

当時、こかん様は数え17歳。今で言うところの高校1年生の頃である。大阪は、江戸時代には商業の街であり、津々浦々から人が集まる栄えた大都會であった。その街角に、一人の若い女性が立ち、拍子木を打ち鳴らしながら、繰り返す「なむ天理王命」と神名を唱える。これが本教における、外部にむけた積極的なをいがけであった。

◇道弘め

続いて紹介するのは、明治14年頃のご逸話である。

山中こいそが、倉橋村^{くらはしむらでやしき}出屋舗の、山田伊八郎へ嫁入りする時、父の忠七が、この件を教祖にお伺いすると、

「嫁入りさすのやない。南は、とんと道がついてないで、南半國道弘めに出す。なれども、本人の心次第や。」

(教祖伝逸話篇 84・南半國)

この「道弘め」という言葉。布教という、強めの印象ではなく、どこかに向かつて新しい道がひらけていくという明るいイメージを抱く。思想や雰囲気は布き渡っていくとも考えられるだろう。

◇なぜ神が現れたのか

ここで核心に迫りたい。なぜひろめるのか？その目的についてだ。

月日にわせかいちうをみしたせど もとはじまりをしりたものなし
このもとをどぶぞせかいへをしへたさ そこで月日があらわれてきた

(13号30・31)

親神様は教祖をやしるとして、この世の表にお現れになられた。その目的、神意を簡潔にお教えくださっているのが上記のおふでさきである。親神様の「もとはじまり」を世界へ教えたいとの思召。そして、人間が「もと」を知らない状態から、知っている状態になったときに、何かしらの変革が生じていく。

◇一人のためやない

加えてもう一つ、以下のおさしづを紹介したい。

一人のために道を弘めたんやない程に。ようこれを聞き分け。皆世上救

けたいため。一人のためやない。世上救けたために私めた道。

(おさしづ 明治33年5月17日)

自分一人だけが陽気ぐらしだったらいいか。家族だけ、友だちだけ、住んでいる地域だけ…。親神様の思召はそんな視座ではない。

人間は皆、親神様の子ども、兄弟姉妹である。その兄弟姉妹が互いに尊重し、たすけ合う生き方こそ親神様が伝えたいことであり、切なる望みであるのだ。

◇ 結びに

ちようどこの巻頭言を執筆している最中、アメリカ・イスラエルとイラクの紛争が勃発した。

正義の反対は、悪ではなく、もう一つの正義である。という言葉がある通り、互いの主張はぶつかればかりで、とても折り合いがつきそうにない。

そんな情勢に、自分はただ祈ることしかできない。そして、あれこれ考えだすと、布教を論じるのが、おこがましい気さえしてくる。

しかし、そもそも本教の出発点に立ち返ると、布教、にをいかけ、道弘めという概念は、もっと純粹であり、親神様の思召にそのまま適うものであるはずだ。

ひとことはなしはひのきしん にをいばかりをかけておく

(みかぐらうた 七下り)

ひろめ一条、その態度と行いこそ、ようぼくの使命であり、何よりの御恩報じの行いなのだ。

そして、頭でつかちになるのではなく、ただ素直に教祖のお供をさせていただくという姿勢が大切なのではないだろうか。そう、こかん様が大阪で神名を流しに出られたように。

さて、次回は「何をひろめるのか？」についてを思案を深めていこうと思う。

立教一八九年三月一日

天理教繁藤大教会長

坂本輝男



2月の大教会長
神殿講話

【立教百八十九年 二月月次祭 祭文】

これの繁藤大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王令の御前に天理教
 繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。親神様には、限りなく深い親
 心と尽きせぬ御守護のまにまに、成人の道恙なくお連れ通り下さいます御慈
 愛の程は、誠に有難く、勿体ない限りで御座います。わけても先月二十六日に
 は、国の内外から教祖をお慕いして帰り集った大勢の帰参者と相共に、厳かに、
 そして滞りなく教祖百四十年祭がつとめられました。お互いに三年千日の歩み
 を御報告し、お導きに御礼申し上げ、更なる成人への誓いを新たに、次の塚へ
 向かう歩み出しの門出をさせて頂きました。そして新しい月を迎え、今日の
 吉き日は、当教会に御許し頂いております御祭日で御座いますので、只今か
 らおつとめ奉仕者一同心を一つに合わせ、座りづとめ、てをどりを勤めて、二月
 の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には、折柄の寒さの中を遠近を同わ
 ず馳せ参じました縁の道の子供たちが共におうたを唱和し、日頃賜る厚き御
 恵みへの感謝、節から芽が出る御守護への祈願、そして尚一層の心の成人へのお
 誓いをそれぞれ申し上げる真実の状を御覧下さいまして、親神様にもお勇み
 頂きますよう御願い申し上げます。

私共教会長を始めよぶべく一同は、この道が陽気ぐらしの世を実現する末代
 かけての道であることを改めて心し、これまでの動きを途切れさせることなく、
 ひろめ一条・たすけ一条の精神をもつて、にまいがけ・おたすけはもちろんのこ
 と、道の将来を担う人材の育成、丹精に励ませて頂く所存でございます。何
 卒、この上共に温かき親心を賜り、神人和楽の世に向かい、力強く前進させて
 頂けますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《繁藤大教会 立教百八十九年二月月次祭 祭典役割》

祭主	指図方		扨者		扨者		男		女		地方	笛	チヤンポン	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓	神殿講話						
	田村辰久	村上英士	佐藤成彦	田村聡佐	立花真一郎	座りづとめ	大教会長	前大教会長	田村辰久	大教会長夫人												前会長夫人	黒石伸子	佐藤栄治	村上英士	藤田一憲	藤田一憲
大教会長	田村辰久	村上英士	佐藤成彦	田村聡佐	立花真一郎	座りづとめ	大教会長	前大教会長	田村辰久	大教会長夫人	前会長夫人	黒石伸子	佐藤栄治	村上英士	藤田一憲	藤田一憲	為田基紀	為田紀久男	坂本久徳	宮田孝道	藤田憲明	田村久徳	佐藤順子	村上美栄子	坂本喜子	田村睦美	宮田みなみ
佐々木 恵	田村省悟	村上由高	空閑慶吾	高橋道則	藤田 誠	てをどり前半	空閑一将	伊藤正福	土居道久	佐藤文代	為田賢子	佐藤明子	佐藤成彦	川田節夫	前田 豊	前田 豊	田村省悟	佐藤節幸	空閑一教	佐々木 恵	田村聡 佐	立花真一郎	坂本喜子	武市まち子	田村睦美	宮田みなみ	
						てをどり後半	空閑慶吾	立花孝一	田村庫治	黒石美佐	村上 綾	阪本喜代子	村上由高	高橋道則	宮田教一	藤田 誠	藤田 誠	佐藤孝彦	秋月英希	坂井博文	村上 修	藤田善典	空閑 都	空閑真理代	宮田みなみ		

【神殿講話】

(3月) 宮田孝道

【ひのきしん】

○本部食堂ひのきしん

新体制発表

ねりあい

【しげとうtime おかえり講話】

(3月) 宇山基紀

5月16日～30日 種崎

11月1日～15日 別府

・年祭活動を振り返って

・3年間の歩みの上に立った

テーマ「息と言葉」

○婦人会詰所ひのきしん

新たな歩み出し

3月25日～26日 (藤高 2名)

対象 教会長夫妻・在籍者

【教会長神殿当番】

(3月) 城 攝・新居濱

参加御供 千円

(4月) 繁 金・方城

【在籍者・教会長夫妻の集い】

左記の通り「在籍者・教会長夫妻の集い」

【詰所教養掛】

(4月) 田村聡 佐

を祭典終了後に開催させて頂きます。教会長

【年祭活動総括の提出について】

御本部より、各教会でのこの度の年祭活動

坂本信子

様方には、必ずご参加頂きますよう、お願い
申し上げます。やむを得ず参加できない方は、

については、総括の依頼がございました。各教

(5月) 安部道郎 (前半)

リモートでも参加して頂けるように致します

会には月報先月号に、その趣旨と記入用紙を

藤田 誠 (後半)

ので、リモートで参加頂きますようお願い致

同封致しております。趣旨をご確認頂きま

【詰所事務当番】

(3月) 星野善胤

日時 3月21日 14時

して、至急大教会までご提出下さいますよう

(4月) 佐藤孝彦 (誕生祭)

場所 大教会3階大広間

お願いいたします。(ファックス可)

高本孝三 (月次祭)

内容 大教会長挨拶 活動方針発表

【婦人会】

◇天理教婦人会第108回総会

『別席者とともに』

式典 立教189年4月19日(日)

午前9時30分

場所 本部中庭、南・東礼拝場前、

西境内地

※式典終了後、支部の集い(詰所4F大広間)

※式典後、当日いただいたお言葉の振り返り

をいたします。

たくさんの方にお集まりいただけますよう、

お声がけよろしくお願いいたします。

◇記念行事『講演会』

4月18日(土)午後5時

テーマ「おやさま」

・第二食堂(第五食堂 映像)

河原町支部長 深谷靖子

・東講堂(旧別席場 音声のみ)

名京前支部長 諸井恵美子

・東右第一棟4階講堂

明拜支部長 宮森みよる

・東左第五棟4階講堂

アメリカ婦人会主任 深谷宏美

◇「御赤衣料」について

繁藤支部婦人会では、毎年教祖ご誕生祭

に「御赤衣料」として御供をさせていただ

いています。ご賛同いただける方は、直属

教会を通してお持ち頂きますよう、よろし

くお願いいたします。

【少年会】

◎おつとめまなび総会

立教189年3月30日(月) 9:30~

参加費 1人 1000円

おつとめ役割

座りづとめ 各隊代表でつとめる

よろづよ八首、1・2下目 西田川隊

3・4下目 垣生隊

5・6下目

直属・藤高・佐岡

7・8下目

高杉・高阪隊

9・10下目

飯武・藤広隊

11・12下目

城下・種崎隊

各隊代表でつとめる

昼食はカレーとさせて頂きます。模擬店・

室内オリンピックをさせて頂きますので各直

属から当日2・3名のひのきしんをよろしく

お願いいたします。

子供も少なくなっていますが、役割の足らな

いところは大人の方のお手伝いをお願いしま

す。

【学生会】

◎教祖140年祭 学生おちばがえり大会

日時: 3月28日 10:00~11:00頃

終了後参加者全員でおつとめ

会場: 本部中庭

テーマ「みんなで勇んで、みんなでつくる、

【初席者（1月）】

優しさと笑顔あふれる大会を」

紋別 佐藤 規子

趣 旨 教祖140年祭を迎え、この旬に、道

添 田 渡 邊 文 子

につながる学生がこぞつておぢば

方 城 坂 本 哲 郎

に帰り集い、真柱様のお言葉を心

に治め、次代を担うようぼくへと

【おさづけの理拝戴者（1月）】

成人していくことを決意する。

城 下 藤 田 正 善

対 象 高校生（新1年生を含む）

大学生・短期大学生・専門学校生

【をびや】 1 件

大学院生 など

右記の要項で開催されます。対象になりま

【おまもり】 2 件

す学生さんにお声がけ頂き、各教区よりご参

加下さい。また、教区から参加できない学生

さんは、当日だけの参加でも結構です。大会

に向け9時に詰所を出発しますので、それま

で詰所までお越し下さい。

仕切り月（2・3月）

2月14日 別府分教会
2月15日 高杉分教会
3月 1日 大教会

大教会での仕切り月は、3月
の一日祭に代えて勤めさせ
て頂きました。

当日は、日頃来られない信
者さんや、地域の方にも声を掛け、座りづとめの後、大教会
長より講話を頂きました。

講話の内容は、現在全国的に雨が少なく問題にもなっており
ます「水」についての講話でありました。

講話中には質問を投げかけたり、隣の人と話し合う時間を
もうけて頂いたりして、有意義に拝聴させて頂きました。

その後、食堂で昼食をとりながら歓談し、楽しいひととき
を過ごさせて頂きました。



大教会 仕切り月

大教会では月に1回の地域食堂と、週に1回のお弁当の宅配をしております。部内の教会でも、「子ども食堂」を開催しておられる教会が数カ所ございます。今回は本山分教会の「子ども食堂」を紹介させていただきます。



南国ようき子ども食堂

南国ようき子ども食堂は、三年千日の年祭活動の一つとして2023年4月にOPENしました。

大教会長様や繁藤に繋がる皆様にサポートいただき、月に一回、3年間一度も欠かさず開催しており、県や市など行政のご支援、皆様のご寄付で成り立っています。

＜食事の様子＞



栄養のバランスが取れるよう心がけています

当初は一桁の参加人数でしたが、現在は100名近くのご予約をいただき、会場の大きさの関係から入場をお断りするほどの大盛況になっています。

毎回8名ほどのボランティアの方にお手伝いいただき、定年後に地域に貢献をしたいとの思いの方、就職活動に役立てたい学生さん、この食堂が楽しくて来て下さる方など食堂の利用者だけではなく、スタッフの方の居場所にもなっています。

また、子ども食堂とは別日に月に1度フードパントリーも開催しています。

今後も地域の皆様の集える場所となれるよう喜び楽しんで続けていきたいと思っています!



会場 本山分教会

＜農作業体験の様子＞



食堂の野菜の一部は、教会で作っています

＜ボランティアの方のお声＞



スタッフの皆さん

○管理栄養士を目指す
大学2年生 女性

この度は素敵な機会をご提供してくださりありがとうございました!!
また参加させていただきます。

○定年後の地域の方 女性

定年後に地域のお手伝いがたくて社会福祉協議会に相談した所、たまたま昔からの繋がりがあった宮田さん(会長夫人)の子ども食堂を提示していただきました。
毎回楽しく来させていただいています。

